

諸般の報告・その他の関係

○委員長（山本義一君） 次に、諸般の報告・その他について御質問がありましたら御発言願います。

宇野委員。

○宇野 裕委員 質問、3点お伺いしたいと思います。

まず、河川管理についてお伺いいたします。

先ほど部長の御挨拶にもありました9月の関東・東北豪雨では、茨城県常総市の鬼怒川や宮城県大崎市の渋井川で堤防が決壊し、河川の氾濫による甚大な被害に見舞われたところであります。国では、鬼怒川で発生した堤防の決壊に対して、被災原因を特定し原因に対応した堤防復旧工法の検討を行うために、鬼怒川堤防調査委員会を設置し検討していると聞いております。

そこで、このような水害に対する河川管理の考え方や取り組みについて伺いたいと思います。

1点として、堤防が決壊して人命や家屋への被害が発生した場合、国、県に管理者責任はあるのかということであります。

2点目として、今回の鬼怒川のような洪水に対して、県はどのように取り組んでいくのか。

一遍に質問してしまいますので、後で続けて御答弁をお願いします。

2点目、私の地元の匝瑳市における海岸や河川の津波対策についてお伺いをいたします。

匝瑳市の市域内における海岸・河川津波対策であります。この問題については6月の常任委員会でも取り上げましたが、再度確認の意味でお伺いをいたします。今年度は、国が示す集中復興期間の最終年度となっております。地域の住民の皆さんが安心して暮らせるためにも、いち早く工事を完成させることが重要であり、県当局には今後格段の取り組みを切に願うものであります。

そこでお伺いいたします。匝瑳市域における海岸の津波対策の現状と今後の取り組みはどうなっているのでしょうか。

次に、河川についてもお伺いしたいと思います。

現在、河口から新浜大橋という橋があるんですが、その区間で堤防のかさ上げが進められており、新浜大橋下流の工事は行われておりますが、河口付近の工事は進んでいないように見受けられます。

そこでお伺いをいたします。新川における津波対策の現状と今後の取り組みはどうなっているのでしょうか。

最後の質問であります。これは道路問題についてお伺いをいたします。

圏央道の整備が県当局、国の御努力で着々と進む中で、本年6月には圏央道の神崎一大栄間が開通をいたしました。これにより、本県と北関東や東北地方を結ぶ広域ネットワークが新たに形成され、沿線地域にはさまざまな効果が波及し始めているのではないかなど私は思っております。永田部長を初め県土整備部でまとめられたインフラのストック効果、非常にわかりやすい資料をつくっていただきました。これを拝見いたしましたが、道路整備が地域にもたらす効果は非常に大きいものであると改めて感じているところであります。引き続き、圏央道の全線開通に向けて、残る大栄―横芝間の早期完成を切に願うとともに、あわせてその効果を広く普及させる地域高規格道路等の着実な整備がますます重要ではないかなというふうに考えております。特に、銚子連絡道路については圏央道の整備効果を海匝・銚子地域に普及させるため、極めて重要な道路であると私は思っております。

そこでお伺いをいたします。銚子連絡道路2期区間の進捗状況はどうか。

以上、御答弁お願いをいたします。

○委員長（山本義一君） 中橋河川環境課長。

○説明者（中橋河川環境課長） 私のほうから最初の2問についてお答えさせていただきます。

まず、堤防が決壊した場合、国、県に管理責任はあるのかという御質問に対してですが、過去にも同様な災害などがあり、河川管理者が再度起こることが予測できるような危険があるにもかかわらず、時間的にも、経済的にも、技術的にも対応可能だという状況にあって対策をとっていない場合には、管理者責任が問われることもあります。

続きまして、今回の洪水に対して県はどのように取り組んでいくのかというようなことですが、県としては、当面の目標として時間雨量50ミリメートル、24時間200ミリメートル相当の降雨に対応した改修を進めております。平成26年度末の整備率は約6割、残る未整備区間の進捗を図っていくことが1つは重要だというふうに考えております。一方、計画規模を超えるような大雨に対しては、人命を守ることを最優先に、迅速な水防活動や住民避難を図るための市町村に対する雨量や水位情報の提供を行っていくことに努めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（山本義一君） 木村河川整備課長。

○説明者（木村河川整備課長） 河川整備課でございます。津波対策の2問に対してお答えします。

まず、匝瑳市域における要津波対策区間は、野手海岸の野手地区から栢田地区までの3キロメートルでございます。このうち、海岸侵食が著しい2.5キロメートル区間については、護岸を整備し、背後に堤防のかさ上げを行います。残りの0.5キロメートル区間については、堤防のかさ上げのみを行うこととしております。

護岸の整備につきましてですが、昨年度末までに0.4キロメートルが完成しております。本年9月末までに0.4キロメートルの工事に着手したところでございます。今後とも順次工事の発注が行えるよう、関係機関等と協議、調整を進め、津波対策の着実な推進に努めてまいります。

次に、新川における津波対策でございます。

新川における津波対策は、河口から新浜大橋までの延長1.2キロメートル、左右両岸合わせて2.2キロメートルで堤防のかさ上げを進めてございます。本年9月現在で、新浜大橋下流の匝瑳市吉崎付近において1.0キロメートルのかさ上げが完了したところでございます。今年度は、河口部に位置します軽桶川及び野田幹線排水路の開口部対策工事とあわせて、残る1.2キロメートルのかさ上げ工事を進めてまいります。早期完成に努めてまいりますので、よろしく申し上げます。

○委員長（山本義一君） 根本道路整備課長。

○説明者（根本道路整備課長） 銚子連絡道路2期区間の進捗状況はどうかというような御質問ですが、銚子連絡道路2期区間につきましては、横芝光町から匝瑳市に至る延長5.0キロメートルの道路事業であり、圏央道にアクセスする大変重要な道路です。現在、用地取得と工事を進めているところであり、用地取得の完了した箇所から工事を実施しております。工事の状況としては、起点部の横芝光町宮川地先では盛り土工事を進めているところであり、9月からは新たに町道のつけかえ工事に着手したところです。また、終点部の匝瑳市八日市場地先から横須賀地先においては、市道交差部のボックス工事を進めているところであり、引き続き軟弱地盤対策工事に着手していく予定です。今後とも、地元関係者の協力を得ながら、残る用地の取得を進め、早期の完成が図れるよう事業の推進に努めてまいります。

以上でございます。

○委員長（山本義一君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 ありがとうございました。さまざまな問題に対して本当に当局の皆様方には大変御努力をいただいていることを改めて感謝をいたします。目標に向かって頑張っていたいただきたいと思います。

最後に要望ではありますが、先ほど洪水に対しての整備が6割だということでありました。残りの未整備の4割について、財源を見ながら県民の理解を得られるように、100%整備率に向かって頑張っていたいただきたい、これは要望でございます。

以上で質問を終わります。